

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社 東海ケア		
事業所名	グリーンホーム かさはら		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	令和6年8月29日	評価結果市町村受理日	令和6年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171900067-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地
訪問調査日	令和6年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日職員と一緒に笑顔が見られるように力を入れている。四季折々には必ず近くへ花見等に出掛ける様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の祭りなどに参加し、近くの児童館とも交流が続いている。運営推進会議等で自治会からの意見も活発にあり、話しやすい環境と地域との関係性が構築されている。玄関の施設件も、職員全員、地域や家族からも積極的に意見を確認し、身体拘束について真摯に取り組んでいる風通しの良い事業所である。外国籍の職員採用を機に、理念を分かりやすく具体的に変更した。全職員に意見を求め話しあい、新しい理念の実現に取り組んでいる。職員は笑顔で安全に配慮し、専門性を持って介護できるよう、管理者と対等な立場で意見交換を行っている。入居者に強制することなく、個々に合わせたケアを実践している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しく外国の方が入社された事もあり、以前に言われたこともあり、職員全員が理解できる理念を全員で作成した。	外国籍職員の採用を機に、令和6年8月に全職員で意見を出し、話し合いを重ねて、再度理念を作り上げた。「毎日元気で、ゼロ災で過ごしましょう。怒れたらひと呼吸、6秒ルール」とミーティング等の際に唱和し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以後は交流が出来ていないので、日常的に交流出来るようにしたいと思っている。	児童館の子どもたちとゲームをしたり、歌ったりして交流している。子どもみこしが回ってきて利用者が一緒に太鼓を叩いて楽しむこともあった。自治会呼びかけもあり、弘法さん参りに出かけたり、福祉祭りには作品を出展したりして地域と交流を深めている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、ホームの状況や活動を報告し、サービス向上の為のアドバイスを頂いている。	会議でボランティアの紹介を受け、11月に行事として企画している。玄関施錠の件について、家族からのアンケート結果も会議で報告する予定である。運営推進会議の内容は、職員ミーティングでも共有している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の書類や事業所の書類等、提出したり聞きに行ったりして協力関係を築き、運営推進会議には市役所、包括の方達にも出席して頂き、意見等を頂く様にしている。	介護保険の更新や加算関係の書類を提出する際に、市役所職員と会話をしている。生活困窮の方、身寄りの方などの相談を市から受けることもある。防災用品の購入についても市と相談し、顔の見える関係性を作っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしなければいけない方は無い。玄関の施錠は外していたが、利用者さんが夕方出て行ってしまい、警察の方から施錠をするように言われ、現在は事務所に必ず人がいる時は外し、いない時は施錠をしている。推進会議での家族からの意見は、近代的な建物はほぼ出られないように暗証番号になっているが、それは拘束にはならないのか？	玄関の施錠については、家族にアンケートを実施した。結果は運営推進会議で報告する予定である。なぜ玄関から出ていきたいのかという本人の思いに寄り添い、行動パターンを把握したり、少し散歩に出たりし、気分転換を行っている。言葉遣いをチェックリストで確認し、半年に1回ずつ研修会を実施している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は研修を行い、話し合いをして防止に努めている。年2回虐待防止の研修を行っている。	年に2回研修を行っている。虐待に陥る仕組みを理解し、職員のストレスやアンガーマネジメントに注目し、管理者は職員に対応方法などのアドバイスを行っている。	

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度を使っていた方がありシンポジウムにも参加したこともある。現在は家族がみえる方ばかりで支援は必要ないが、必要性が出来た時は支援するようにする。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明はする。不明な点はいつでも聞いて頂く様にしている。可能であれば本人様にも見学に来て頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方も運営推進会議に参加し意見交換を行っている。	毎月請求書と一緒に便りを同封し、心身の状況や日頃の様子を家族に報告している。メッセージアプリを使用して報告も行い、家族との関係性を築いている。コロナ以前は家族会で行事を開催していたが、最近では中止している。今後オレンジカフェを再開したい希望がある。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見や提案を聞く機会が設けられている。ミーティング時にも自由に意見を言えるようにしている。	炊飯器等の家電も職員の意見に応じて購入している。管理者と職員が一緒に仕事をするため、普段から職員からの要望を確認している。業務の効率化のため、記録の電子化にも取り組んでいる。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	就業規則の見直しや、有給、個々に合った仕事など配慮している。給与形態の変更があり、若手の賃上げがあり職員の士気が向上したかもしれない。	公休や就労時間、業務内容などを随時要望を確認し、職員の事情に応じた勤務体制を取っている。専門家のアドバイスを受け、職員の賃上げ、有給休暇の取得率アップに取り組み、職員の士気が向上した。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外人の方2名今年より働いて頂いていて、研修などは母国語に直したりして行っている。	年間の研修計画に応じた研修を行っている。介護福祉士、介護支援専門員などの資格を取るための研修費用は事業所が負担し、勤務扱いにしている。誰が見ても分かるように、各種マニュアルを整備したり、外国籍職員むけに母国語で資料を作成するなどの配慮がある。	

グリーンホームかさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表、管理者が同業者と電話で話す機会はあるが、以前の様に集って話をすることは出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のやれることをお願いして行っている(洗濯物を干す、畳む) 利用者さんが利用者さんの面倒を見る事を見守りながら支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が毎月ミーティング時に話し合っており、希望、意向の把握に努めている(利用者さんとの日常会話の中で希望、意思を聞く)	会話の中から意向を引き出せるように、昔話をしながら話しやすい雰囲気を作っている。会話が難しい方は筆談や表情を確認して意向をくみ取っている。好きなもの、苦手なものや、米飯かパンがどちらが良いかなど、把握したことを職員で共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方を話し合い、又家族からの要望を組み、現状に即した介護計画を作成している。	毎月職員ミーティングで課題を話し合っている。家族の意向は面会時に確認し、リハビリをプランに取り入れることもある。主治医からは診察時、栄養の事など助言をもらっている。	毎月話し合っているが、介護計画作成にあたりアセスメントの記録が確認できなかった。今後アセスメントツールを活用される予定であり、実施、整備を期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づきを個別記録し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている(タブレット、ノート使用)	介護記録は電子化している。タブレットやパソコン随時記録が確認できるようになっている。申し送りノートも作成し、情報が共有されたかを確認している。1日2回、口頭での申し送りがあり、気になることは都度話し合っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に合わせてご家族とも話し合い、訪問看護であったり出張マッサージ、通院の付き添い、買い物など行っている。	空床型のショートステイが利用できる。お試し入居を利用でき、良ければそのまま入居が可能である。訪問マッサージなども紹介し利用できる。受診時、家族の都合がつかない場合は、事業所で受診の支援を行っている。	

グリーンホームかさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	弘法様、子供神輿、福祉祭り等、出掛ける事の出来る方は楽しめるよう支援している。児童館と定期的に交流あり。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受けている。急な時、又家族が連れて行けない時などは、家族と連絡を取り合い即対応している。	受診時には、家族や主治医が分かるように書面で日ごろの様子や変化を伝えている。訪問診療を利用される方は、直接医師に確認する他、生活上の注意事項や薬剤情報などが書かれた情報提供書をもらい、確認している。家族が受診対応できない場合は、受診に同行することもある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ以後病院にも行くことが出来ない為、ご家族様を通して情報交換になっている。病院の相談員の方とは電話で話をし、情報交換や相談に努めている。	入院後、家族や病院の相談員に様子を尋ね情報収集している。入居時に、入院時の対応を説明しており、意向などは早めに確認している。医療行為が無いことを前提に、再入居が可能である。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明をし、ご家族の要望を聞き事業所で出来る事を説明している。終末期については、主治医との連絡にて協力して頂くように取り組んでいる。	入居時に看取りの指針を提示し、事業所で出来る事、出来ない事を説明している。食欲低下や体調の変化があった際にも、家族に今後の意向について確認している。訪問看護を利用しながら、看取り対応が可能である。管理者は職員をフォローし、職員の不安が最小限であるように努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習を受けて実践力を身につけている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルはあるが、職員全員が身につけているとは言えない。現在、地域と共同での防災訓練を企画している。	夜間想定を含んだ避難訓練を年2回実施している。もしもの際に地域の方が避難できるように備蓄している。運営推進会議などで、地域の災害ボランティアを企画し、公募している。避難方法などは各所に貼り出し、職員が周知できるようにしている。	

グリーンホームかさほら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じ言葉を繰り返され、その内怒り出し、暴言が出たりする方には、その方の好きな事をして対応している。	居室のポータブルトイレは日中は布をかけ、プライバシーに配慮している。難聴の方にはボードを使い筆談し、対応している。個人の記録等は鍵のかかる書庫に保管されている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で希望を表現できる方は表現して頂き、出来ない方には二者択一にしてみたりして自己決定出来るようにしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の体操の参加、不参加であったり、部屋で休みたい人であったり等、その方に合わせて支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭いて下さる方、下膳をして下さる方等、出来る事をして頂いている。	リクエストにはレクリエーションの一環として手作りおやつと一緒に作っている。朴葉寿司、ちまきなどの行事食もメニューに取り入れている。テーブル拭き、食器片づけなど職員と一緒にやっている。苦手なものを把握し、他の物で対応することもある。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	皆さんよく食べられ水分も摂られている。摂られない方には飲み物を替えて提供して、時間を掛けて摂れる様にしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、口をゆすぐ、うがい薬を使用し口腔ケアをしている(介助が必要な方は介助する)	毎食後、職員が見守り、必要な方は介助で口腔ケアをしている。希望者は訪問による歯科診療を受けることができる。口腔機能の維持を目指し、口腔体操も毎日実施している。	

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的に時間でトイレに誘導介助をする。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	重度の方が増えている為、夕方～夜の時間帯は無理なので、午後からその人に合った入浴の支援をしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファ、ベッド等で休まれる方有り。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用、用法や用量について理解し、下剤は症状に応じて主治医の指示のもと増減している。訪問診療時、これまでの症状など相談している。	薬に変更があった場合は、薬剤情報を申し送りで共有している。内服のしづらさがある方は、手作りの服薬ゼリーで飲みやすくしている。内服の方法は手順を定め、誤薬のないように確認体制を設けている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男女仲良く楽しんでみえる方もある。	洗濯などの家事を職員と一緒にしている。カレンダーの日めくり、ゴミ箱作り、メダカの餌やりなど、それぞれに役割を持って生活している。居室では仏壇に手を合わせる方、お花の手入れをする方など、生活歴に合わせた活動を見守っている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お花見、弘法様、福祉祭り、ドライブ等で楽しんで頂ける様努めている。家族と外出される方もある。	気分転換に近所へ散歩する。弘法さん参り、福祉祭りなど近所の行事にも出かけている。家族と一緒に美容院や外食に行く方もある。希望に応じ、季節ごとの花見にドライブに出かけている。	

グリーンホームかさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は少ない金額を持っている方もありましたが、最近では自分で持てた方が紛失される事が多い為、事務所で預かるとそのまま忘れて何も言われないので、ご家族にお返しする様になり、持っていない方がほとんどです。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はないが、電話は時々掛けたいと言われる方には支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時々季節に合わせて皆さんで作った作品を飾っている。	廊下やリビングには利用者が作った、季節ごとの作品を掲示している。長椅子が置かれ、好きな場所でくつろぐこともできる。毎年毛糸を使った絵の作品を作っている。外からの光でまぶしい時はよしずなどで調整している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で、冗談を言ったりエコ袋を作ったり、楽しそうに笑い声がしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋にポータブルトイレを置いて安心される方、タンスを置いていたら、気になるのか動かしてしまわれる為、無くしてみたら心地よかった方など工夫をしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が2階の為、1階のホールで過ごして頂いている。ホールにはベッドを置き、横になりたい方は横になっている。塗り絵の好きな方、テレビの好きな方、廊下を歩かれる方等、自立した生活を送っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社 東海ケア		
事業所名	グリーンホーム かさはら		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	令和6年8月29日	評価結果市町村受理日	令和6年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171900067-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)		1. ほぼ全ての利用者が	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
						4. ほとんどいない	
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しく外国の方が入社された事もあり、以前に言われたこともあり、職員全員が理解できる理念を全員で作成した。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以後は交流が出来ていないので、日常的に交流出来るようにしたいと思っている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、ホームの状況や活動を報告し、サービス向上の為のアドバイスを頂いている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の書類や事業所の書類等、提出したり聞きに行ったりして協力関係を築き、運営推進会議には市役所、包括の方達にも出席して頂き、意見等を頂く様にしている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしなければいけない方は無い。玄関の施錠は外していたが、利用者さんが夕方出て行ってしまい警察の方から施錠をするように言われ玄関はセンサーで対応している。推進会議での家族からの意見は、近代的な建物はほぼ出られないように暗証番号になっているが、それは拘束にはならないのか？身体拘束会議は2ヶ月に1回全職員で行っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は研修を行い、話し合いをして防止に努めている。年2回虐待防止の研修を行っている。		

グリーンホームかさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度を使っていた方がありシンポジウムにも参加したこともある。現在は家族がみえる方ばかりで支援は必要ないが、必要性が出来た時は支援するようにする。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明はする。不明な点はいつでも聞いて頂く様にしている。可能であれば本人様にも見学に来て頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方も運営推進会議に参加し意見交換を行っている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見や提案を聞く機会が設けられている。ミーティング時にも自由に意見を言えるようにしている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	就業規則の見直しや、有給、個々に合った仕事など配慮している。給与形態の変更があり、若手の賃上げがあり職員の士気が向上したかもしれない。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外人の方2名今年より働いて頂いていて、研修などは母国語に直したりして行っている。		

グリーンホームかさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表、管理者が同業者と電話で話す機会はあるが、以前の様に集って話をすることは出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のやれることをお願いして行ってもらっている(洗濯物を干す、畳む) 利用者さんが利用者さんの面倒を見る事を見守りながら支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が毎月ミーティング時に話し合っており、希望、意向の把握に努めている(利用者さんとの日常会話の中で希望、意思を聞く)		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方を話し合い、又家族からの要望を組み、現状に即した介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づきを個別記録し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている(タブレット、ノート使用)		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に合わせてご家族とも話し合い、訪問看護であったり出張マッサージ、通院の付き添い、買い物など行っている。		

グリーンホームかさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	弘法様、子供神輿、福祉祭り等、出掛ける事の出来る方は楽しめるよう支援している。児童館と定期的に交流あり。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受けている。急な時、又家族が連れて行けない時などは、家族と連絡を取り合い即対応している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ以後病院にも行くことが出来ていない為、ご家族様を通して情報交換になっている。病院の相談員の方とは電話で話し、情報交換や相談に努めている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明をし、ご家族の要望を聞き事業所で出来る事を説明している。終末期については、主治医との連絡にて協力して頂くように取り組んでいる。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習を受けて実践力を身につけている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルはあるが、職員全員が身につけているとは言えない。現在、地域と共同での防災訓練を企画している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、その人に合った言葉で対応をしているが、難聴の方もみえ誤解を招く事もあるため、ボードに書いて見て頂き、理解してもらう様にしている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で希望を表現できる方は表現して頂き、出来ない方には二者択一にしてみたりして自己決定出来るようにしている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の体操の参加、不参加であったり、部屋で休みたい人であったり等、その方に合わせて支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭いて下さる方、下膳をして下さる方等、出来る事をして頂いている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べられる量が減少し、栄養バランスの悪い方は主治医に相談し、栄養食を出して頂いたり、水分量の少ない方はいろいろな飲み物を提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、口をゆすぐ、うがい薬を使用し口腔ケアをしている(介助が必要な方は介助する)		

グリーンホームかさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗を減らすためには、トイレに行かれる時は様子を見て介助をしたり、声掛けをしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	重度の方が増えている為夕方～夜の時間帯は無理なので、午後からその人に合った入浴の支援をしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい方は部屋であったり、ソファで休んでみえる。夜眠れない方はベッドの横で眠れる様に付いて見守る時もある。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用、用法や用量について理解し、下剤は症状に応じて主治医の指示のもと増減している。訪問診療時、これまでの症状など相談している。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会、七夕、カラオケ等で気分転換をして楽しんでいる。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見、弘法様、福祉祭り、ドライブ等で楽しんで頂ける様努めている。家族と外出される方もある。		

グリーンホームかさはら

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は少ない金額を持っている方もありましたが、最近は自分で持ってみえた方が紛失される事が多い為、事務所で預かるとそのまま忘れて何も言われないので、ご家族にお返しする様になり、持っていない方がほとんどです。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はないが、電話は時々掛けたいと言われる方には支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時々季節に合わせて皆さんで作った作品を飾っている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で横になったり、トランプで一人遊びをしたりしてみえる。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や使い慣れた物、遊べる物等を入れ、心地良く過ごせる様工夫をしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手芸、洗濯物を干したり、畳んだり、見守りの中自立した生活が送れるよう工夫している。		